

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者氏名：K・T様（90代 男性 要支援1）
利用期間：平成27年1月～令和元年5月 逝去

経 過：入居時より自立した生活をされていた。
平成31年1月頃より加齢に伴い車椅子移動での生活となる。3月頃より食事量低下、
活気、意欲低下の症状あり腎機能低下、うっ血性心不全、鉄欠乏性貧血の診断。
ほとんど自室から出てこられなくなり寝たきり状態となる。
早く死にたいと口癖のように言われるようになるがお孫さんのオペラコンサートに行く
という目標を立て多職種との連携により目標が叶った事例。

内 容

平成27年1月入居

入居後4年間はほぼ自立した生活を送られており、平成30年年末くらいから元気がなくなってきました。

平成31年1月、腰の痛みを訴えS病院へ入院。5日程で退院されるが車椅子での移動となる。

椅子に座ったまま寝てしまう事も増え活動量低下。徐々に食事量も低下していった。

平成31年3月末頃、ほとんど臥床して過ごされ、体が動かなくなっていく事に対して「生きるのがしんどくなってきた、5月の孫のコンサートまで生きられればいいかな」といった発言が聞かれるようになる。娘さん、お孫さんの面会も頻回にあったが、職員に対しては「寝ているのも辛い、安楽死させてほしい、はやく死にたい」と生きる意欲がなくなっているようであった。

意欲が低下してきている状態でKさんに何が出来るかを考えた時にお孫さんのオペラコンサートに行きたいと話されていた事を思い出し、もう一度そこに向かって生きる意欲を出してもらおうと外出企画を立てることになった。

コンサート会場までは約50kmの距離があったが、送迎方法、移動中の介護体制、医療体制、緊急時の搬送先、コンサート会場のレイアウトの確認等を行い計画をご本人、ご家族への説明を丁寧に行っていました。

介護、看護の面からは、日々のケアの中でのコンサートについて声掛けを行い楽しいイメージをしてもらえるようなコミュニケーションに終始徹底し、医師とこまめに情報共有を行って行きました。

食事については食事形態を見直し少しでも食べやすい物を提供するよう、栄養課と連携し召し上がりたいたいもの、形態含めて調整をし提供して行きました。その結果、「コンサートに行けるように頑張るから面倒かけるけど助けて下さい」という前向きな発言が聞かれるようになり、実行に移す運びとなりました。

令和元年5月、車で長女と共に出発し、現地で医師、介護士と合流し予定していた時間よりも長くご覧になる。前日までは10分程離床すると身体の痛みを訴えられていましたが当日は4時間以上も離床出来る。帰設後は職員に対して笑顔も見られました。

10日後、娘さんに看取られながら逝去されました。生きる気力を失いつつある中で職員一丸となってもう一度希望をもってもらい輝きの一日を過ごすことができた人の生きる力の強さを引き出した事例でした。